

日本共産党上越市議員団 市議会報告

発行2005年5月

日本共産党
上越市議員団
連絡先 日本共産党
上越地区委員会
543-1890
杉本 敏宏
524-3787
樋口 良子
544-6802
橋爪 法一
548-3628
市議団事務局長
上野 公悦
530-2203

三人の議員団でがんばりました

三月定例議会(二月二十八日)から三月二十八日)が終わりまし

「住民要求が実現しているか」、「不要不急の事業はないか」などを中心に議論を展開しました。

二月の増員選挙で吉川区の橋爪法一議員が当選し、三人の議員団として臨んだ初めての議会でした。

十三区から選出された議員が、その区の代表としてどんな発言をするかが注目されました。

「日本共産党議員団の活動は十人力だ」という評価も聞かれました。

党議員団は「新市建設計画を執行する最初の予算議会」と位置づけ、「これまでの合併協議の結果がどのように反映しているか」、

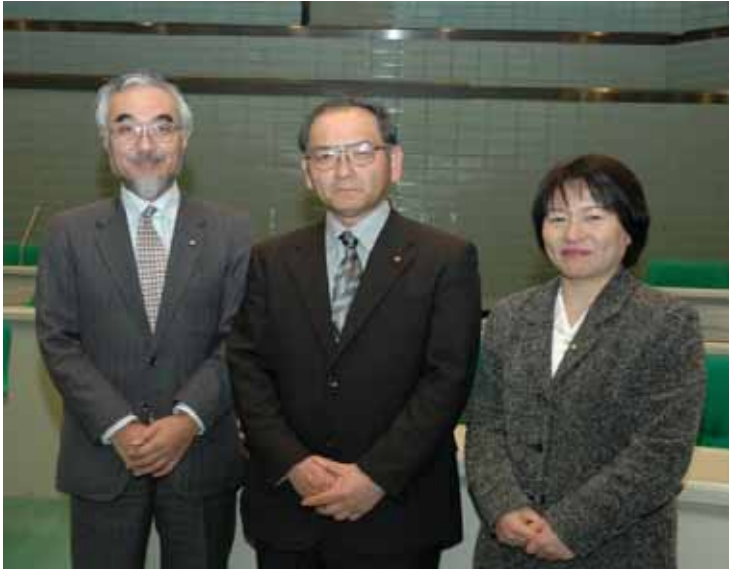
「わが党の議員が一人から三人になったことで、災害対策、福祉、教育などの分野でたくさんの方

に百十三億七千万円も増えることになり。合併初年度での計

たからです。

規模に膨れ上がりました。特別会計(13会計から18会計)も合わせると千八百八十一億円という規模です。市債(借金)は新たに百十三億七千万円も増えることになり。合併初年度での計

要求実現の道が開かれました。



3人になった日本共産党議員団
左から、杉本敏宏議員、橋爪法一議員、樋口良子議員

増員選挙の結果

吉川区(1人区)では2人に1人の得票
頸城区では保守の集中砲火の中、大善戦

吉川区(1人区)
橋爪 法一
当選 一七八三票

頸城区(2人区)
上野 公悦
次点 一一七三票

日本共産党は合併後の初めての市議会議員選挙で、十三区からの候補者を二人に絞り(それぞれで七人の議員)、必勝を期してたたかいました。

吉川区では橋爪が約50%の得票を得て当選、頸城区では惜しくもあとわずかで届きませんでした。

画を大きくはみ出すことになった予算・・・今後いつたいどうなるのか大変不安の大きい出発となりました。

日本共産党議員団は、引き続き住民の皆さんの要求実現にむけてがんばっていきます。市政への要望などは党議員団へ遠慮なくお寄せ下さい。

こんな成果がありました

上越病院への補助金・・・
医師等の体制が仮に後退した場合、縮小もあり得るといふ答弁引き出す
耐震診断調査の拡大・・・
公民館の調査に補助
地域自治とはかけ離れた地域相談役の中止の道を開く
乳幼児医療費助成制度・・・
外来三歳から四歳までに対象拡大(頸城・吉川などは一歳後退)
要援護世帯除雪費補助・・・
人夫だけでなく機械除雪も補助対象に
シニアパスポートが使える
公共施設の数が増加・・・
国民健康保険税値下がり
街灯の新設数の増加

請願審査の結果

- 被災者生活支援再建支援法の改善に関する意見書提出を求める請願 【不採択】
- 消費税の増税に反対する意見書の提出を求める請願 【不採択】
- 生活保護基準以下の新潟県最低賃金の抜本改正を求める請願 【不採択】
- 国家公務員の地域別給与への改悪を行わず地方財政の確立と充実を求める請願 【不採択】

日本共産党議員団は、上記の請願に賛成しました。



合併後初めての議会を終えて・・・頸城区での報告会

樋口良子
議員

市民の願いを代弁： サービス低下を許さない！

合併後初めての予算議会。二〇〇〇項目以上のサービスのほとんどが合併前の上越市にあわせられ、そのことによって十三区のサービスが低下したところをチェックし、一刻も早く元に戻し、全市に広げるように一般質問や委員会を取り上げました。

高齢者の介護手当ては合併前は五千円のところが多かったのに合併後は三千円に引き下げ。「せめて値下げ前に戻してほしい」という多くの声を代弁しました。

紙おむつ助成は頸城区では半減。体の不自由なおばあちゃんも、「若いものに負担はかけられない」とビチョビチョになるまでオムツをを換えさせないという切ない話を一般質問で紹介。



樋口議員、孫とのひと時

対象者は生活保護世帯以下の人であり、これでは対象となる人が少ないのもっと枠を広げるように要望しました。

幼児医療費助成の対象年齢は新年度から3歳までから4歳までに拡大。しかし、吉川区や頸城区などは合併によりそれまでの就学前から一歳後退。市長が「子育て支援は緊急の課題と言っなら早急に就学前まで拡大せよ。あと六千万円あればできる」と強く主張しました。

保育料は二年間で上越市に合わされることによって、頸城などでは月二万円も値上げされる世帯も。合併協議で決まったこととはいえやはり見直すべきと強く迫りました。

杉本敏宏
議員

自立しなければならぬのは 市長自身でしょ！

総括質疑では、財政論議に関わって、上越総合病院の新築に二十億円という破格の補助金を出すという問題を取り上げました。他の医療機関と比べて大変不公平ですが、市長は最後まで認めようとはしませんでした。

「二十万人の過疎都市」として有名になりましたが、「過疎計画は借金計画ではなく、真に過疎地域が自立できる計画にすべきだ」と追及しました。これに対し、市長は、「総合的な対策が必要」との認識を示しました。

一般質問で取り上げたのは、旧町村の三役などを特別扱いにする「地域相談役会議」。「相談役がないとだめなのか」と詰め寄りしました。市長自身が自立しないで市民に「自立・自助」とは言えません。総務常任委員会での「夏頃までに解散する」という答弁につながりました。

土地開発公社の問題。宮越前市長は、含み益があるから売れば儲かる」といつていました。含み損があり売れば売るだけ損をすること。自転車の目途が立っていません。

選挙後の臨時議会から、旧上越市会議員の「編入だから」「入れてやるんだ」という態度が鼻につきました。

「新議員十八人と総合事務所長の紹介をする」ということが提案。新議員にしてみれば、旧上越市の議員や職員のことばかりありません。「旧上越の議員も含めて全員紹介すべきだ」と議長に申し入れた結果、全員で自己紹介をすることになった。当たり前のことなのに。

橋爪法一
議員

除雪対策などで 一定の前進を勝ち取る

市会議員になって初の定例議会、これまでの町議時代の経験を生かして気づいたことはどんどん発言していきこうという姿勢でのぞみました。合併協議会委員として活動していたこともあって、市議や理事者の中には顔見知りが多く、気持ちよく楽でした。それと、市議団ニュース、市政レポート（吉川版）などを発行するたびに住民の皆さんから励ましの言葉をいただきました。これ

は議会でがんばる力になりました。

合併後、住民の皆さんから出されていた要望の中で最も多かったのは、雪の問題でした。今冬は十九年ぶりの豪雪で、所によっては四尺を超える積雪となりました。県では「大雪警戒対策本部」から「豪雪対策本部」に格上げ措置をとって対応しましたが、市は「大雪警戒対策本部」のままでした。なぜ格上げ措置をとらなかったのか

私の質問に答える中で、市長が、県立柿崎病院対策で関係議員と連携していくことを表明したことは歓迎するものです。



同じ上越市・・・平地では雪が少なくても山間部では豪雪